

## 滋賀県競技力向上対策本部における 「競技力向上基本計画・推進計画」改定の方針について

### I 改定の経緯

- 標記計画では開催年までの間を準備期、充実期、躍進期に区分し、各期の終了後に見直しを行うこととしており、充実期（平成 29 年度～令和 2 年度）が終了する令和 2 年度において基本計画・推進計画の見直しを行う。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により本県における国スポ・障スポの開催年が 2025 年となったことを受け、計画期間の変更に対応して、令和 7 年開催の両大会における目標達成に向けた指針となるよう改定を行う。

〔参考：充実期までの段階的目標達成状況〕

開催年	H26 年	H27 年	H28 年	H29 年	H30 年	R1 年	R2 年
開催県	長崎	和歌山	岩手	愛媛	福井	茨城	－
計画での 位置づけ	準備期			充実期			
	20 位台			10 位台			
年次目標	－	20 位台		20 位台前半			10 位台
総合成績	35 位	24 位	33 位	39 位	31 位	30 位	－
総合得点	810.5 点	940.0 点	888.0 点	803.5 点	854.5 点	870.5 点	－

### II 現計画の成果・課題

#### (1) 選手の育成・強化

##### ① ジュニア選手の発掘・育成・強化

###### 【主な成果】

- ・ 次世代アスリート発掘育成事業の定着  
 [6 期生まで延べ 230 人を指定、全国大会活躍（ベスト 16 以上）18 名]
- ・ ターゲットエイジ指定選手の指定証授与による意識付け  
 [H30 19 競技 210 人→R2 38 競技 562 人に指定証授与]

###### 【課題】

- ・ ジュニア選手の中・高進学時における県外流出
- ・ 国スポ延期に伴って影響を受ける選手への支援

## ② 成年選手の育成・強化・確保

### 【主な成果】

- ・ 大学生のふるさと選手登用の増大 [H29 199人 → R2 226人]
- ・ 2024 滋賀国スポ採用促進事業 (SHIGA アスリートナビ) の開始  
[R1 採用 20名、R2 採用内定 3名、エントリー者 7名、協力企業 35社]

### 【課題】

- ・ 成年選手の雇用機会の拡充と競技活動に専念できる環境の整備
- ・ 開催年に選手として活躍できる、競技力の高いアスリートの確保

## ③ 障害者スポーツの普及・選手の拡大

### 【主な成果】

- ・ 全国障害者スポーツ大会で活躍が期待される選手等の活動支援の実施  
[パラアスリート育成強化事業 H30 11競技→R2 全競技 (13競技) に支援]
- ・ これまで県内にチームのなかった団体競技のチーム育成  
[H28 (知) バレーボール、R2 フットベースボールチームが活動開始]

### 【課題】

- ・ 2025 年障スポ大会を目指す選手の育成・強化に関わるスタッフの確保・育成
- ・ 団体競技における育成候補選手の確保と大会で活躍できる競技力の確保

## (2) 指導体制の充実

### ① 指導者の確保

#### 【主な成果】

- ・ 教員採用選考における「スポーツ特別選考」の導入 [H26-R2 で 41名採用]
- ・ 「優秀選手・指導者活用事業」による強化拠点校に対する優秀指導者の派遣  
[H29 5校5部 → R2 14校 20部]

#### 【課題】

- ・ スポーツ特別選考による指導者のさらなる確保

### ② 指導者の養成・資質の向上

#### 【主な成果】

- ・ 指導者講習会の開催・上級指導者資格取得に対する支援の実施  
[H29 1,710人 → R2 1,891人]
- ・ 国体コーチ派遣の拡充 [H29 28競技 55人 → R1 32競技 86人]

#### 【課題】

- ・ トップレベル指導者 (アドバイザー) の招聘事業の積極的展開

### ③ 組織的な競技力向上の推進

#### 【主な成果】

- ・ 競技毎に実施するプロジェクトチーム会議の定期的開催 [H29~各年 2回実施]

【課題】

- ・ 競技人口の少ない競技は組織の力も不安定であり対策が必要

(3) 拠点の構築と環境の整備

【主な成果】

- ・ 強化拠点校の指定と拡充 [H29 21校35部 → R2 31校81部]
- ・ 強化拠点となる企業・大学・クラブ指定および支援の充実  
[H29 13団体19チーム → R2 15団体26チーム]
- ・ 競技用具の計画的な整備の実施 [H27 → R2で42件を整備]
- ・ 医科学サポートスタッフの増員  
[スポーツドクター(医師) H29 34人 → R2 47人]  
[スポーツアドバイザー(栄養士等) H29 9人 → R2 18人]  
[コンディショニングスタッフ(理学療法士等) H29 24人 → R2 42人]  
[スポーツファーマシスト(薬剤師) H29 2人 → R2 39人]
- ・ 国体コーチ派遣にかかる所属機関への依頼実施、職専免扱いの実施(県立高校)
- ・ 広報を通じた県民の機運醸成

【課題】

- ・ 強化拠点校のさらなる魅力づくり
- ・ 競技力向上に関わる教員・公務員にかかる服務規程の整備や、強化活動に参加しやすくなる条件の整備

### III 改定方針

- 充実期までの取り組み状況を踏まえ、成果の維持向上と課題の解決を図るために必要な方策を記載する。
- 開催年の延期を踏まえ、強化への影響を抑えつつ効果的な取り組みを行うために、躍進期の始期設定および段階的目標を検証のうえ再設定する。

### IV 改定の方向性(案)

#### 1. 躍進期の始期設定

- 目標得点や順位等、充実期における段階的目標は達成できていないものの、少年種別の拠点である強化拠点校の設置や優秀指導者の配置、競技団体におけるターゲットエイジ強化選手の指定と強化体制の構築、企業チームに対する支援の充実が進むなど、一定の成果が表れている。
- 目標を達成するためには、充実期までの成果を踏まえ、開催年までの残された期間の

中で効率的、効果的に強化を行っていく必要がある。そのためには、延期により与えられた1年間を有効に活用できるよう「躍進期」で実施すべき方策を早期に明らかにし、前倒しで着手していく必要があると考えられることから、一年前倒しをして令和3年以後の4年間で「躍進期」と位置付け取り組むこととする。

## 2. 段階的目標

- 国スポ開催年までの各年における順位目標・獲得点数目標（段階的目標）については、開催年における「1位、2,400点獲得」を定めたうえで各年の目標を設定していた。
- 過去5年間（H27和歌山～R1茨城）の先催県の、開催年における獲得得点平均は2,400点を上回っていることから、目標点数の上方修正を検討する。
- 併せて、先催県における開催年までの間の順位、獲得得点の実績も勘案しながら、各年の段階的目標を検討する。

（参考）

	開催4年前	開催3年前	開催2年前	開催1年前	開催年	開催1年後
段階的目標値 (現計画)	1200点	1500点	1600点	1800点	2400点	1200点
	10位台	10位以内	8位以内	5位以内	1位	15位以内
先催5県の 平均得点・順位	861点	952点	1000点	1280点	2409点	1190点
	31位	23位	22位	12位	1位	14位

## 3. 新たに盛り込むことを検討している方針

充実期までの成果と課題を踏まえ、既に方策として記載されている事項は引き続き実施するとともに、躍進期の期間中に追加して取り組むべき以下の項目を新たに記述することを検討中。

### (1) 選手の育成・強化

- ① ジュニア選手の発掘・育成・強化
  - ・ 重点的に強化してきたターゲットエイジ強化選手が2024年および2025年に県代表として出場するための支援
  - ・ 上位入賞が期待できる県内の高校所属の競技力の高い選手を指定しての支援
- ② 成年選手の育成・強化・確保
  - ・ 上位入賞が期待できる成年選手に対する個人指定強化対策の充実
  - ・ 自らの競技活動に取り組むとともに、その競技の指導に従事するアスリートの雇用機会の創出
- ③ 障害者スポーツの普及・選手の拡大
  - ・ 2025年の全国障害者スポーツ大会において、多くの選手が出場し活躍するための強化スタッフの充実を図るための支援

## (2) 指導体制の充実

### ① 指導者の確保

- ・ 専門的な競技指導ができる教員の積極的採用

### ② 指導者の養成・資質の向上

- ・ 高い見識と指導力を持つ優秀な指導者を定期的に招き、指導実践や指導者講習会等を実施する競技団体に対する支援

### ③ 組織的な競技力向上の推進

- ・ 国スポ・障スポに向けた競技力向上の取組過程において、組織力が不足している種目を中心に競技団体の組織強化に向けた対応

## (3) 拠点の構築と環境の整備

- ※ 充実期の取組を継続

## 4. 改定スケジュール

- ・ 1月下旬 滋賀県競技力向上対策本部 各専門委員会で案の検討
- ・ 2月中旬 第13回競技力向上対策委員会 審議・本部会議上程
- ・ 3月中旬 県議会国スポ・障スポ対策特別委員会への報告
- ・ 3月下旬 第13回本部会議 審議・決定